

あい愛
ひろば

桐生市社協だより

Vol. 65
2021. 1. 1 発行

発行／社会福祉法人 桐生市社会福祉協議会
〒376-0006 桐生市新宿3-3-19
TEL.0277-46-4165 FAX.0277-46-4166
ホームページ <https://kiryu-csw.net/>



せせらぎサロン(梅田1丁目)の皆さんから市と社協に「シトラスリボン」が寄付されました。コロナ禍でのサロン活動を工夫し、現在は集合形態から個々でのマスクやシトラスリボン作り等に形を変えて活動しています。

主な内容

- 2.....支部社協活動紹介
- 3.....地域福祉活動計画（個別相談支援）
- 4.....コロナ禍における新しい地域福祉活動の取り組み
- 5.....事業再開のご案内
- 6.....地域包括支援センター
- 7.....社会福祉大会、表彰者紹介
- 8.....生活支援員募集、臨時職員募集

シトラスリボンプロジェクトとは…

コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がつくったプロジェクトです。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや、専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動です。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場（もしくは学校）を表現しています。

第14 支部社協活動の紹介

次世代モビリティの導入実験に協力

地域福祉課

第14支部社協では、地域の課題を話し合う地域包括ケアシステム協議部会において、地域課題やその解決策について、検討をしてきました。地域課題として、高齢者の移動手段の確保が課題として挙げられていました。

より専門的に検討を行うため、支部社協内に、次世代モビリティを活用することで、高齢者等が自由に買い物などの外出が出来るような仕組みづくりの研究、構築を目的とする研究部会を設けました。研究部会を基にして、各町会を単位としたスローモビリティの試乗会を実施しています。また、地域で運行を担えるように運転体験会を実施しています。

○実験の概要

実験は、桐生市と群馬大学が実施するもので、第14支部社協（梅田町1丁目～5丁目）・市社協が、地域における次世代モビリティの導入実験に協力をしています。

高齢化や公共交通の衰退に伴う、免許返納問題・高齢者の外出頻度の低下による生活の質の低下・地域のつながりの希薄化等の地域課題を次世代モビリティの導入により、解決を図るものです。

○多世代の関わり

移動手段の確保は高齢者だけの課題と捉えがちですが、将来的なニーズを含め、運行には、勤労世代や若い世代の関わりや合意が必要となってきます。

梅田地区においては、梅田南小学校児童や梅田中学校生徒の試乗体験も行われました。体験を通して、地域のお店の把握や、地域課題・解決策を考えていただきました。

○社協の活動

高齢者の移動手段の確保など、地域ニーズに合った福祉サービスの充実のための調査・研究を行います。

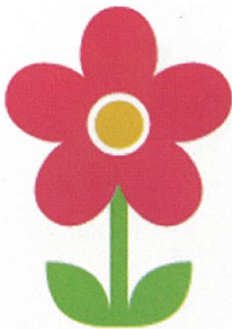
ています。地域公共交通マイスターである佐羽宏之氏に実験をご紹介いただき、地域との連絡調整等について協力しています。

○持続可能な 仕組みづくりへのチャレンジ

体験試乗会を通して、地域住民はMAYU（マユ）の持つ新たな価値を感じています。

MAYU（マユ）の特徴や価値を活かした運行方法について、おでかけサロンとして活用する、基幹交通であるおりひめバスへの支線として活用する、マルシェイベントの際に利用するなど、様々なアイデアが出てきています。

次世代モビリティを地域交通として、持続可能な仕組みとするためには、地域ニーズに適した運行、多世代の地域住民の主体的な関与が必要です。「地域福祉」の視点を持ちながら、実験を通じ、そのプロセスについて検討を行っていきます。



ムービングチェア



ナローモビリティ



MAYU (マユ)

***次世代モビリティとは**
実験で用いる次世代モビリティは、市民にはおなじみのスローモビリティである低速電動バス「MAYU（マユ）」、超小型電動電気自動車であるナローモビリティ、セニアカーに自動運転技術を搭載したムービングチェアの3つです。



第3次

地域福祉活動計画

地域福祉課

〔個別相談対応について〕

社協では、制度の狭間にあり課題解決が困難なケースに対して、関係機関と連携しながら、個別支援を行っています。

本号では、個別相談として関わりの増えているひきこもり問題について紹介します。

～中高年層のひきこもりの理解と課題～

近年、中高年層のひきこもりが増加しています。内閣府の調査では、40歳から64歳の中高年層のひきこもり状態にある人が、全国で61万3千人（2019年時点）いるとの推計結果が報告されています。15歳から39歳を対象とした調査では、54万1千人がひきこもりと推計され、国内のひきこもりが100万人規模に達している可能性が示されています。

中高年層のひきこもりの特徴としては、男性が多く、ひきこもり

期間は、6割以上が10年以上となっています。ひきこもりのきっかけは、職場での不適應によるものが最も多く、仕事の失敗や人間関係の不和から退職し、社会復帰がかなわずにいるケースが多くみられます。

世帯構成の特徴としては、親との同居が多く、親亡き後に生活面や経済面で課題を抱え、支援が必要な状況となっています。また、親に介護が必要となり、課題が表面化するケースも少なくありません。

～ひきこもりへの支援状況～

現在ひきこもり状態にある方の約4割が、支援を受けることを希望せず、家族自身も支援者の介入を好まず、周囲に気づかれずに課題が大きくなるケースもあります。

ひきこもりが続き、命の危険があるにも関わらず、自ら支援窓口に相談した人は、現在支援を受けている人の約15%しかおらず、多くの人が「働かない負い目」や「職場でのトラウマ」から、他に助けを求めることはできないと考えてしまっているかもしれません。

～これからの支援～

これまでの支援は、本人の経済的な自立を前提に、就職や社会復帰に繋げることを目標としていましたが、社会で傷つき、社会復帰が困難な人にとっては、ハードルの高い目標設定になっていました。社会や家庭で居場所を見つづれずに、生きる意欲そのものを失ってしまった人たちにとっては、「安心できる場所」があることが、社会復帰への一歩になり、いま求められている支援でもあります。



～地域支援、仕組みづくりに向けて～

制度やサービスの狭間にあるケースには、次のような背景が考えられます。

① 既存の福祉サービスだけでは対応しきれない。

② 経済的理由等で利用することができない。

③ サービスの利用を拒んだり、本人が援助の必要性を感じていない。

④ サービスに関する情報を知らない。

このような背景を抱えることで、地域や人とのつながりが失われ、課題の解決が、自身や家族だけの対応は難しくなっています。社協では、窓口での相談だけでなく、訪問での聞き取りや情報提供をすることで、社会的なつながりの橋渡しをしています。

今後は、一人一人の支援を通じて、そこから見える地域課題を地域に投げかけ、地域と共有しながら、支え合いの仕組みづくりに繋げていきたいと考えています。



コロナ禍における新しい取り組み

地域福祉課

新型コロナウイルスの影響により、サロン活動が開催できない状況が続いています。前号に引き続き、新しい生活様式に沿った内容で活動を再開した取り組みを紹介いたします。(新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年12月から休止しています。)

●今泉ひだまりサロン

(第7区今泉町会)

運営者寺林さん(今泉町会長)にお話を伺いました。

Q 感染拡大前は、どの様なサロン活動をしていましたか。

A 最初は「地域の茶飲み場」にしているという目的でスタートしました。サロンを始めるにあたり、スタッフと意見を出し合いながら、1年かけて準備しました。

感染拡大前は、毎月1回第3木曜日に集会所で2時間ほど実施していました。

前半は、椅子に座ってできる簡単な体操、脳トレクイズを、後半は、参加者みんなで歌を歌ったり、おしゃべりしながらお

茶の時間を楽しんだりしていました。25人前後の参加がありました。

スタッフは、民生委員児童委員、婦人会、ボランティア、交通婦人部、町会役員に協力いただいています。



脳トレクイズを楽しむ参加者

Q 現在の活動はどのような形式ですか。

A 基本的には変えていませんが、歌は休止して全体的に時間を短くしています。

活動自体を苦と思ったことはないです。コロナ感染拡大防止を念頭に、3密にならないよう

十分に注意を払うことが大切であるということスタッフ間でしっかりと共有しています。室内換気やテーブルの配置を工夫して、自然と参加者同士の距離が保てるようにしました。集会所に来た際は、マスク着用、手指消毒をお願いし、非接触型体温計で検温しています。また、終了後に参加者、スタッフ全員で、使った備品の消毒作業も徹底しています。

休止期間が長くなるほど、「まあ、いつか」と再開しづらくならないように、できることから始めて、無理をしない取り組みが大切だと考えています。基本的には以前と変わらず継続した取り組みが大切だと思っています。

Q 参加されている方からはどんな感想がありますか。

A サロン休止中は、「いつ再開するか待ち遠しい」といった要望をいただけていました。こうした声に応えるため、何度もスタッフ同士で話し合い、やれることからやろうということになったのです。再開後のサロンに、概ね満足いただけているようです。現在、18人ほどの参加があ

ります。参加者や家族の心配もあると思うので、感染予防対策はしっかりとしていきたいと考えています。

Q 今後の取り組みについては、どのようにお考えですか。

A 現在は、新型コロナウイルスの影響で参加者も少なくなっていますが、今の状況を受け入れた対応が、今後必要と考えています。また、サロン活動を通じて、自然に声かけや見守り活動が生まれているので、継続していきたいと思っています。



体操で介護予防